

あらすじとみどころ

双蝶々曲輪日記

ひき まど

一、玩辞楼十二曲の内 引窓 一幕

こう じょう

二、四代目中村鴈治郎襲名披露 口上 一幕

れん じ し

三、連獅子 長唄囃子連中

■引 窓

南与兵衛

後に南方十次兵衛 競雀改め 中村鴈治郎

女房お早 中村壱太郎

母 お幸 中村寿治郎

三原伝造 中村亀鶴

平岡丹平 市川男女藏

濡髪長五郎 市川左團次

■口 上

競雀改め中村鴈治郎

坂 田 藤十郎

幹部俳優出演

■連獅子

狂言師右近後に親獅子の精 中村扇雀

狂言師左近後に仔獅子の精 中村虎之介

僧 蓮念 中村亀鶴

僧 遍念 市川男女藏

あらすじとみどころ
ふたつちょうちようくるわにっき ひきまど
■双蝶々曲輪日記 引窓

八幡の里にある南与兵衛の家では、与兵衛の女房お早と母お幸が明日の放生会の準備をしている。そこへお幸の実子で、幼い頃に別れた濡髪長五郎が尋ねて来るので、お幸は喜んで招き入れる。

やがて、郷代官に昇進した与兵衛が帰宅する。与兵衛の初仕事は、大坂で人を殺めた相撲取を捜索すること。だが、犯人の人相書には長五郎の姿があった。これを知ったお早は夫に詮議をやめさせようとし、お幸も人相書の買い取りを申し出る。しかし家の中に長五郎がいることに気づいた与兵衛は……

『双蝶々曲輪日記』の八段目にあたる『引窓』の場は、引窓から差しこむ月の光の明暗と共に、家族の義理と情愛が交差する人情味溢れる世話物です。

こうじょう
■口上

平成二十七年に五代目中村翫雀が上方の名跡である中村鴈治郎を四代目として襲名いたしました。一月、二月の大阪松竹座、四月の歌舞伎座、六月の博多座での襲名披露興行に続き、各地の皆様に襲名披露のご挨拶を致します。

れんじし
■連獅子

狂言師の右近と左近は、文殊菩薩が住むと言われる天竺清涼山の石橋のいわれを語り、親獅子が仔獅子を谷底に突き落とし、這い上がっててきた子だけを育てるという故事を踊る。その後、ふたりの旅僧がやって来て、互いの宗派の宗論を始めるが、一陣の風に驚いて逃げ去る。やがて、親子の獅子の精が現れ…

…

能『石橋』を題材とした『連獅子』は、獅子の狂いが見どころの舞踊です。